

北海道の元気! NPO訪問

12 NPO法人 子育て支援ワーカーズプロジェクト

文・加藤知美

カフェを場に結び合う地域の絆 子育て支援からコミュニティ再生へ進む

◇ 気軽な交流スペース「カフェ亜麻人」

札幌の地下鉄麻生駅から北へ伸びる商店街。その一角、コンビニエンスストアの入るビルの二階に、麻生商店街の地域力アップ事業によりNPOが運営するカフェがある。大きな窓からは、JR新琴似駅へ通じる幹線道路が大きくカーブする独特の眺めを見下ろすことができる。麻生の地名の由来でもある亜麻にちなんで、「カフェ亜麻人」

と名付けられて昨年七月にオープンしたこの空間は、地域の幅広い世代の人たちが気軽に立ち寄り、お茶を飲みながら交流できる「地域のお茶の間」をめざしている。手ごろな値段のコーヒー、ハーブティー、うどんなどの軽食を提供するほか、壁沿いの棚は小物販売のミニショップとしてレンタルしている。フロアには子どものおもちゃも用意され、趣味の集まりや各種講座での利用予定もびつしりつまっている。

運営に携わっているのは、北区・東区で一五年前から子育て支援活動が続けてきた「NPO法人子育て支援ワーカーズプロジェクト」だ。今までの活動を通じて、親を支えないと子どもたちが育ていかないことを痛感していた。子育てをする親たちの孤独感、閉塞感を解消するために、親たちが外に出て地域の様々な人たちと交流できる場所をつくりたいと願い、昨年七月に実現させた。

活動を始めた頃と比べて、行政や地域団体などが開設する子育てサロンが増え、親たちが行く場所が増えてきたものの、地域の幅広い世代の地域の紐帯にはなっていない。高齢化が進む中で、お年寄りも孤立感を強めている。地域に住んでいる人たちが道端で挨拶を交わし、気軽に声をかけあって暮せるまちづくりをめざして、ひとつの「場」としてのカフェにたどりついた。独居世帯

はもとより、日中ひとり度過ぐす高齢者も、

ここによく立ち寄る。このカフェで遊ぶ子どもたちを見て元

気になるお年寄りもいる。ちよつとした立ち話や挨拶が子育ての閉塞感に悩む親たちには生きる力を与えている。

◇ ワーカーズ・コレクティブから子育て支援NPOへ

子育て支援の直接的な活動としては、家庭へ出向いての個人保育や、集会所場で託児スペースを設けての集団保育を行っている。個人保育では、きめ細かに柔軟な対応をこころがけ、保育士、幼稚園教諭、看護師などの経験や母親としての体験を活かして〇〜一二歳の子どもの預かる体制をつくっている。集団保育では、良質なおもちゃや絵本を持参し、安全であたたかみのあるスペースをつくって保育をおこなうことで、コンサートや研修会に参加する母親は充実した時間を過ごすことができる。

「自分たちの住む街で子育てを支援する仕事をしたい」という願いから一九九五年に五人の女性



地下鉄麻生駅から徒歩2分ほどの
場所でカフェを運営

が集まって活動を始めた。現在代表理事をつとめる喜多洋子さんは、転勤先の釧路から札幌に戻り、双子を育てPTA活動に忙しく過ごしていたときだった。生活クラブ生協の活動を通じて、生活者の視点から地域で必要なサービスを提供するという、自分たちで出資、経営し、労働を担うというワーカーズ・コレクティブという新しい働き方を知り、プチトマトを設立することになった。最初は、主に生活クラブ生協の会合の際の託児を請け負う活動だったが、個人の託児や家事支援のニーズもあったため、子育て支援へとシフトしていった。総事業高は、初年度は約五〇万円だったが、現在は一〇〇〇万円を超えている。メンバーも三〇人に増えた。二〇〇七年に法人格を取得し、「NPO法人子育て支援ワーカーズプチトマト」として活動を展開している。

託児の依頼は電話で受け付け、都合のつくメン



「地域のお茶の間」の名前のとおり、異世代交流の会話がはずむ

バーが保育の仕事を担当する。集団保育のときは子どもの年齢や人数によって必要な数のメンバーが集まる。主婦なのでそれぞれが忙しく、限られた時間を仕事に充てているが、チームワークよくお互いにカバーし合って仕事をすすめている。仕事への関わり方も様々だが、個性も多様だ。メンバーの個性を尊重し、違いを認め合いながらやっているのが特徴的であり強みでもある。

◇ 広がる応援の輪、子どもも母親も社会の宝

カフェ亜麻人にも実に様々な人がやってくる。

地域に気軽なコミュニケーションの場が求められていることがわかる。喜多さん自身は、かつて釧路に暮らしていたときの濃密な近所づきあいの経験から、「密になり過ぎず、自分が必要だと思うときにに行けるような場所があればいいのでは」と言う。かつての地縁・血縁による強固なつながりが希薄になる一方で、個人と個人が程良い距離感でつながり支えあうようなゆるやかな絆がこれからのコミュニティを紡いでいくのだろう。プチトマトの活動が、子育て支援を出発点に、地域社会の新しい人間関係の編み直しへ展開したのも必然だった。商店街の事業としては、商売に直接的なメリットのない事業だが、地域のためには必要な場所であるとの理解を得てすすめられている。NPOの総会に商店街や町内会の役員を来賓として招いて情報公開と交流をすすめた効果もあり、応援の輪は徐々に広がっている。

プチトマトでは、三年後をめどに、発達障がいを持つ子どもの支援を始めようという準備をすすめている。

る。親も子どもストレスのないデイサービスを提供するのために、発達障がいについての勉強会を開催して理解を深めている。公的制度の資金による事業をとりいれ、

安定した事業展開とする目的もある。

現政権は子ども手当などの子育てを応援する施策を展開しているが、喜多さんは、仕事を持つ母親でも専業主婦でも、いつでも気軽に低料金で子どもを預けられる仕組みが必要だと考えている。

親がリフレッシュできれば子どもも心豊かになれるというわけだ。社会全体が子育てを支える仕組みが必要で、子育ての責任を母親の自己責任とするのではなく、社会が責任を持つべきなのである。「子どもも宝、ただお母さんも宝なのだから」と笑顔で語り、子どもと子育て世代をそとと支える頼もしい先輩ママの顔をのぞかせていた。



「メンバーが気持ちよく仕事できるよういつも助け合っています」と代表の喜多洋子さん

- ◆ NPO法人子育て支援ワーカーズプチトマト
所在地 札幌市北区北14条西3丁目11-23
TEL 0801287019735
WEB <http://petitomato-jcis.com/>
- ◆ カフェ亜麻人
所在地 札幌市北区麻生町6丁目 高橋ビル2F
TEL 011172813700